

1カ月間大変お世話になりました。

三つ葉での研修により人生における大切なことを教わりました。

先生に出された宿題の件に関してレポートを提出させていただきます。

- 私の三つ葉での研修目標は病院主体の考えでした。例えば在宅医療では検査が限られているなか症状からどのように診断して治療していくか、どのような検査ができるか、どんな時に緊急と判断するかということです。

しかし1カ月研修していくなかで考えが変わっていきました。それは患者さんを病気そのものとして捉えるのではなく人間として捉えることです。

病院の中にいると、病気主体で考えてしまいがちです。私自身患者さん自身と向き合えていませんでした。しかし在宅医療では私たちの知識だけが必要なのではなく、患者さんにとって何が安心か何が大切かなどを考えるようになりました。

例えば食道がん末期のGさんが突然発熱した時にすぐに緊急往診へ行ったことが挙げられます。365日24時間体制は患者さんや家族にも多大な安心感、信頼感を与えることができます。そしてちょっとした世間話や患者さんの昔言割こ耳を傾けるだけで、患者さんがとても嬉しそうな顔をしてくれたことを覚えています。

最初は安心や信頼を与えるにはすごく時間がかかると思いました。訪問中に全力投球で患者さん自身と向き合えば短時間で2人の間にある壁は少しずつなくなっていくことを感じました。

特に私は見学という立場でしたが多くの患者さんや家族の方が暖かく迎え入れてくれたことが嬉しかったです。

- 今後の日本は後期高齢者が増加していくため病院自体で看取れる事が必ずしもできなくなると思います。病院勤務をしていると、多くの患者さんが自宅で最期を迎えたいと考えていることを知りませんでした。でも実際慣れ親しんだ自宅で大好きな家族の見守られる中で死にたいと考えるのは当然です。今後在宅医療は日本の医療を支える大きな柱となるので在宅医の必要性が高まると思います。実際の三つ葉の在宅医療は私なりの言葉で表すと"進化系在宅"というイメージです。

- そのイメージとは若い先生方の活躍、電子カルテの導入、白衣を着ないこと、24時間365日対応していることなどです。

実際医療センターの後輩達は在宅医療について以下のイメージを抱いていました。おじいちゃん先生が聴診器と往診バックを片手に外来が終わったらちらっと患者さん宅を訪問する。

これらのイメージでは若い先生や研修医はあまり在宅に興味を抱かないのが現状です。これからは在宅医が増えることは日本医療の理想であり、その実現にはやはり若い力が必要です。

私からも何人か若手の先生に三つ葉の宣伝をさせていただきました。目から鱗といった反応でそれだったら興味ある!!と言った声が多数ありました。

たくさんの若い医師に三つ葉スタイルの“進化系在宅”を知ってもらいたいと思います。